

福岡中学校 英語科 2月アンケート結果 考察

1 アンケート結果

- ・ 設問（1）から、6月、2月ともにほぼ9割の生徒が、「英語の授業を楽しみにしている・どちらかといえば楽しみにしている」という肯定的な回答をしています。
- ・ 設問（2）から、1年生では6月、2月ともに9割の生徒が「進んで英語で話している」と回答しています。2年生では8ポイント増加し、8割の生徒が肯定的な回答をしました。3年生では12ポイント減少していますが、調査時に入試に向けて「読むこと」の領域を中心に学習をしていたためではないかと考えられます。
- ・ 設問（3）から、「聞くこと」「話すこと [やり取り]」において、「できる・だいたいできる」と回答した生徒が各学年ともに他の領域に比べて多いことが分かります。
- ・ 設問（4）から、「外国の文化や生活を知ることができた」と回答した生徒が9割を超えていることが分かります。特に2年生では12ポイント増加しており、顕著な伸びが見られます。
- ・ 設問（5）から、「英語学習が将来役立つと思う」と回答した生徒が6月よりも増えていることが分かります。
- ・ 今年度は、2学年でオーストラリアの中学生とのオンライン交流会を1回実施し、1年生でも年度末に実施する予定です。現在、1年生は紹介したいトピックに分かれて前向きに準備を進めています。

2 今年度の成果

- どの学年の生徒も意欲的に英語の授業に取り組んでおり、明るい雰囲気の中で授業が行われています。今後も生徒の意欲が高まるような学習活動を取り入れるとともに、安心して発言できる雰囲気づくりに努めます。
- 最近の英語教育では、実際の発話による英語の運用が文法や語彙の定着にもつながるとされています。今年度は、目的意識を持たせられるような場面設定をして「話すこと [やり取り]」「話すこと [発表]」に重点を置いて指導してきました。その結果、3年生では12月に実施した標準学力調査の「応用」分野の結果が極めて良好でした。

3 今年度の課題

- 「書くこと」を苦手としている生徒が他の領域と比較して多いようです。その要因として、「基礎的な単語を書くことができない」「文法や連語、慣用的表現に沿って文を組み立てることができない」ことが考えられます。

4 令和6年度の重点事項

- ◎ 「書くこと」を苦手としている生徒が多いことから、基礎的な英単語を確実に書くことができるようにするために、家庭学習と授業を連動させて語彙の定着を図ります。現行の教科書では約2,300語の英単語が取り上げられていますが、そのうちの1,000語を「基本語（教科書では太字で表されている語）」として、話したり書いたりして発信できる程度にまで定着させることを目指します。単元テストと連動させることにより、日々の積み重ねが結果に表れることを実感させます。
- ◎ 身近な話題について、既習の文法や連語、慣用的表現を用いて表現する学習活動を設定し、話したり書いたりして発信する力を高めます。